

フォーカスメディカ

疾患解説アニメーションシリーズ

佐藤春彦

(北里大学医療衛生学部講師)

百聞は一見にしかず、人は話を聞いたり本を読んだりして論理的に理解することより、目で見て直感で理解することの方が得意である。例えば、「シェフ特製のオーロラソース・ラングステーキのポワレ」と料理名だけ書かれたメニューより、炒められた手長エビの写真の入ったメニューのほうが、どのような料理か理解しやすい。そんな「わかりやすさ」に重点を置き、CGを駆使して作られているのがフォーカスメディカ疾患解説アニメーションシリーズである。商品の特徴を短い時間で伝えるテレビコマーシャルのように、病気の全体像を10分程度で描いている。

病気の概要について語るべきことは多岐に渡り、免疫や炎症など複雑な生体反応など病態生理まで短時間で「わかりやすく」説明するのは至難の業である。しかし、本シリーズはプレゼンテーションの極意にも通ずる次のような3つの仕掛けで、見る者を納得させてしまう。

1) 事象の映像化

わかりやすい最大の要因は、徹底した事象の映像化にある。嘔吐シーンなど、そこまで絵にするか？というくらい徹底して文字情報が映像化され、語られている内容が直感的に理解できる。

2) 誇張表現

「運動の指令が脳から筋肉まで、神経を伝って情報が伝わる」というナレーションには、実際には光って見えたりはしない神経の活動電位が神経伝導路を稲妻のように光って筋肉まで走るという大胆にアレンジされ

た映像がつけられている。特に、可視化できない細胞や組織レベルで起こる反応の説明に誇張が使われている。『関節リウマチ』では、まるで戦闘シーンのように戦闘機のような免疫細胞が次から次へと滑膜を通りぬけ、機関銃を発射するようにメディエーターを放出し、軟骨がみるみる破壊される様子が描かれている。アニメだからこそ可能な誇張表現によって、発症メカニズムが生き生きと描かれ、強い印象を見る者に与える。

3) ストーリー性

著名な講師がスライドを使って解説するというこの手の教材でよく見られるシーンが一切ない。疫学から始まり、解剖、病態生理、発症メカニズム、治療、予防といった「流れ」で話が展開されている。徹頭徹尾、CGを中心とした動画で話が展開するので、教材というより1つのアニメ作品のように仕上がっている。

ただし、短時間に多くの内容を盛り込んでいるため展開が早い。医学的知識の少ない者が見た場合、病気の全体像は掴めても、個々の内容までを一度で理解することは難しいだろう。補足的な説明が必要な部分もあり、理解を深めるには解説やコメントが欠かせないため、教育用には講義の補助資料としての使用が適している。

本シリーズは『変形性関節症』『関節リウマチ』『骨粗鬆症』『脳卒中』『糖尿病性神経障害』など、現在23タイトルが揃っている。オリジナル(英語版)も56タイトルが発売されており、日本語版もさらに充実していくものと思われる。また、著作権処理済の製品なので図書館等でシリーズを揃えて安心して共有利用することができる。

●CD-ROM/DVD-ROM 各巻 10～15 分
定価 各巻 9,975 円(本体 9,500 円+税)
2008 年～ テクノミック・刊